ウスクロテンヒメシャクの一生[1)]

岡　垣　弘[2)]

Life History of *Sterrha salutaria* CHRISTOPH

By HIROMU OKAGAKI

本種は翅の地色があかちやいろをしている点においてクロテントビヒメシャク *Sterrha foedata* BUTLER にたいへんよく似た種類であるが，本種の方がすこし小型で雄交尾器の形がことなり，分布がたいへんちがっている．すなわちクロテントビヒメシャクが本州中部以北および北海道[3)]に多産し，本州西部では山間の寒冷地に分布するのにたいして，本種はどちらかというと暖地性で，本州西南部から四国九州[4)]にわたって分布している．筆者は鳥取県の浦富海岸地方において本種が多産するのを知り，飼育することに成功したので，その食草と経過とを記録しておく．

卵：強制産卵によると食草の葉うらに1個づゝうみつけられる．みじかいたわら形で約10本のたてみぞがあり，長径約 0.4mm，色は黄白色．

幼虫：若令期はかなりほそ長いけれども，令をかさねるにしたがってずんぐりしてきて，たくさんの輪状のひだが著明になってくる．したがって胸部もまたきわめてみじかい．色は各令をつうじて黒褐色，気門上線は黄色をおびた褐色でやゝ不明瞭．1令では各腹節に相当して黒色の環をもつが，2令ではほとんど消失，3令以後は背面に不規則な矢の羽がたの黒色紋がみとめられる．体長は1令約 2.5mm，2令 4mm 内外，3令 7mm 内外，4令 12～14mm，5令 14～17mm．

蛹：土の中の浅いところまたは落葉のあいだでまゆを作ることなく蛹化する．黄褐色で体長約 7mm．

周年経過および食性：第1回の成虫は6月中旬ないし7月中旬にあらわれる．この成虫を瓶の中にとじこめて強制産卵させ，第2代の成虫をえた．産卵は7月1日，7日内外で孵化．幼虫は雑食性で，イネ科のスズメノヒエ（*Paspalum*）キク科のヨモギ（*Artemisia*）オオバコ科のオオバコ（*Plantago*）タデ科のイヌタデおよびサクラタデ（*Polygonum*）を摂食した．しかし発育を完了させることができたのはイヌタデのみであった．幼虫期は約40日で8月8～15日に蛹化し，約7日間の蛹期ののち羽化した．これが野外においてごく少数みられる第2代の成虫にあたるものであろう．野外においては9月中旬ないし10月にもまた成虫を得られるが，その大部分はおそらく第3代の成虫であろうとおもわれる．9月中旬ふたゝび卵をえて飼育をはじめ，10月に2令となった．その後ほとんど成長せず，11月にはいると野外のサクラタデは茎だけのこって葉はぜんぶ枯れてしまったのでやむをえず絶食させておいたところ11月末にはみんな死んでしまった．けっきよく越冬態は不明のまゝである．
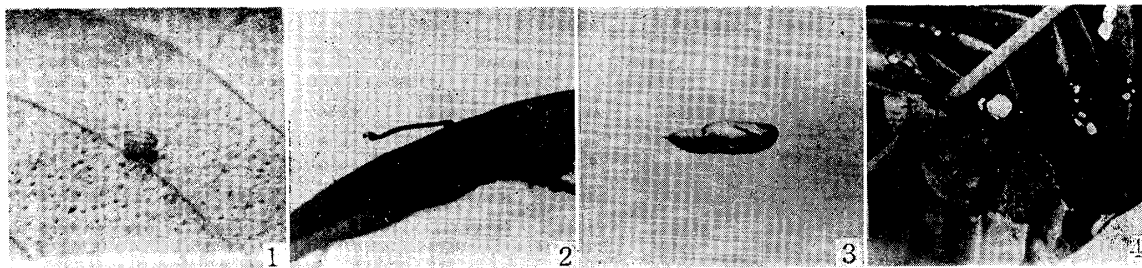
Fig. 1　Egg. Sept. 23, 1956.　Fig. 2　Larva of 1st stage. Sept. 24, 1956.
Fig. 3　Pupa. Aug. 19, 1956.　Fig. 4　Adult. Aug. 19, 1956.

1) 蛾の生態写真集（2）.
2) 鳥取市東品治町113
3) 国外分布：朝鮮，中国.
4) 国外分布：アムール.
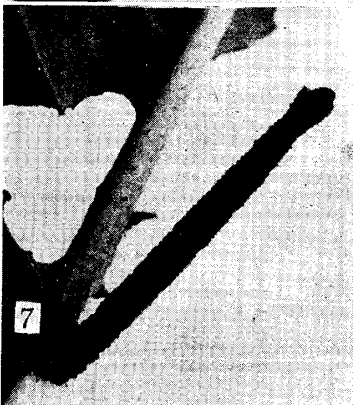
Fig. 5 Larva of 2nd stage. Oct. 11, 1956.
Fig. 6 Larva of 3rd stage. July 25, 1956.
Fig. 7 Larva of 4th stage. Aug. 3, 1956.
Fig. 8 Full grown larva. Aug. 13, 1956.
All photos with Miranda, Zunow f 1.9 (extension tube) on Neopan SS.